



事業検討会 (1) を開催しました！！

本事業検討会では、長岡天神駅周辺まちづくりの実現化に向けた取り組みとして、前回提案した『重点整備地区（たたき台）』に関係する土地や建物の所有者を対象に当該地区内における市街地整備手法、事業展開を提案させていただき、意見交換を行いました。

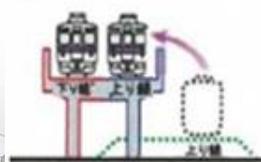
事業検討会 (1) は、令和2年10月1日から10月3日にかけて全6回開催し、案内を受けた271名の方々の内、58名の方が参加されました。



【主な内容】

○長岡京が考える最適な阪急線路の立体交差方式

阪急線路の高架化について、長岡京市としては、まちづくり展開への影響が少ない『仮線方式』が望ましいと考え、まちづくりを検討しています。



スピード感を持ったまちづくり
 ・まちづくりに対する地域要望の早期実現
 ・地域課題の早期解決

STEP.1

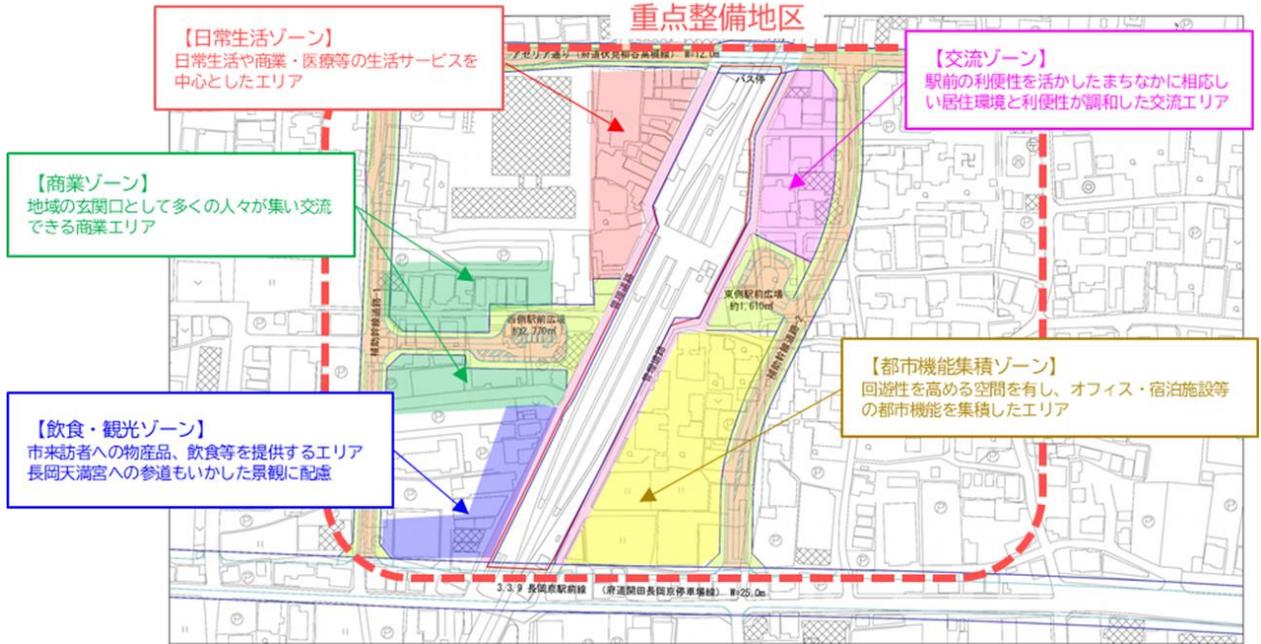
STEP.2

段階的な事業展開

- ・公共投資の平準化
- ・段階的な事業展開による早期効果発現

○目指すまちづくりの姿（イメージ）

重点整備地区の東西エリアについて、目指すまちづくりの姿の実現に向け、東西エリアの一体的な検討も含めて、最適な整備手法の組み合わせ、整備順序・整備時期を検討しています。

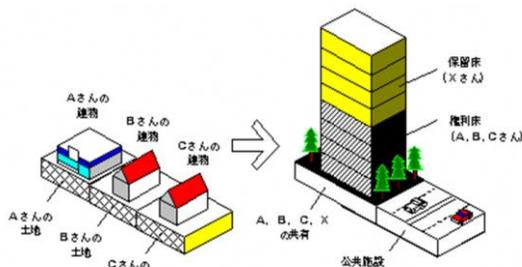


○駅西地区における市街地整備手法（案）の提案

- ①連続立体交差事業の影響が少ないため、先行的にまちづくりを推進します。
- ②目指すまちを実現する事業手法は、敷地を共同化して高度利用し、駅前広場等の公共施設や賑わい空間を生み出す『市街地再開発事業等』の適用必要性が高いです。



注) 今後の測量成果により、駅前広場及び道路の位置・形状は変わる可能性があります。
連続立体交差事業を仮線方式とした場合の検討です。

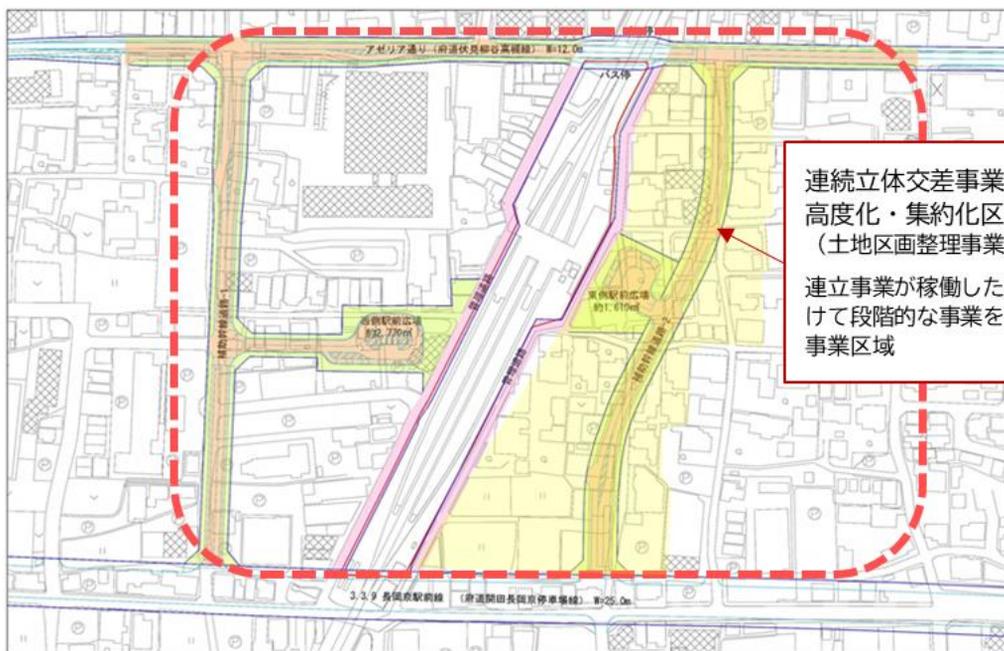


権利変換方式

○駅東地区における市街地整備手法（案）の提案

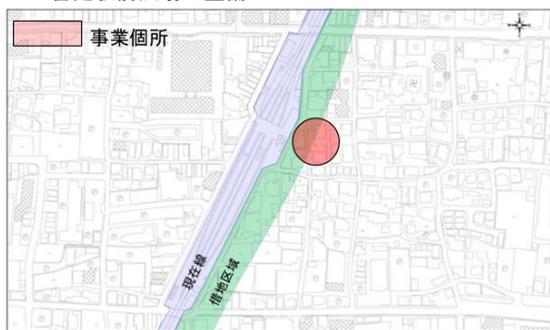
- ①連続立体交差事業の影響が大きいため、連続立体交差事業を推進する役割を持つ土地区画整理事業主体のフレームを設定します。
- ②連立事業が稼働した際や全体計画の実施に向け、段階的な事業を展開します。

重点整備地区

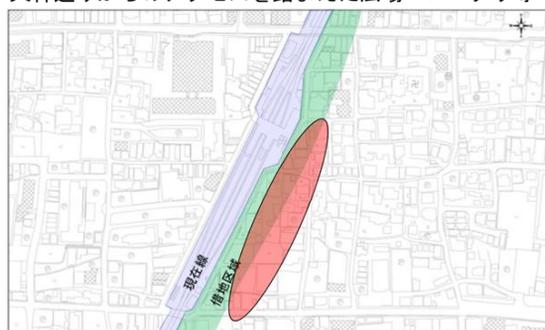


連続立体交差事業を推進する役割を持つ
高度化・集約化区域
(土地区画整理事業、市街地再開発事業等)
連立事業が稼働した際や全体計画の実施に向け
段階的な事業を展開するステップアップ
事業区域

- ①【R4年度まで】
暫定駅前広場の整備



- ②【R5年度 ~ 連立事業着手まで】
天神通りからのアクセスを踏まえた広場・ロータリ等



- ③【連立事業期間】
連立事業、補助幹線道路 (区画整理事業)



- ④【連立事業完了 ~ 完成まで】
駅前広場、市街地再開発事業等



【主な意見】

<鉄道高架化について>

参加者



- 鉄道高架化の早期実現を望む。
- まちづくり全体の事業期間や展開を考えると仮線方式が良い。

長岡京市



- 連続立体交差事業の早期実現に向け、事業主体となる京都府との協議を継続する。
- 駅周辺のまちづくりは、連続立体交差事業と密接に連携した手戻りのないまちづくり展開を決定し、着手していきたい。

<駅西地区のまちづくりについて>

参加者



- 仮線方式を前提として、先行的なまちづくりを推進して欲しい。
- 目指すまちづくりの実現に向け、市街地再開発事業の必要性が高いことは理解できる。
但し、権利変換にしても具体的なプランを示していただかないことには検討も決断もできない。

長岡京市



- 連続立体交差事業の早期実現に向け、事業主体となる京都府との協議を継続する。
- 駅周辺のまちづくりは、連続立体交差事業と密接に連携した手戻りのないまちづくり展開を決定し、着手していきたい。

<駅東地区のまちづくりについて>

参加者



- 連続立体交差事業の事業着手時期に大きく左右されるため、駅東地区のまちづくりは、当分先と考えてよいのか。具体的なスケジュールを示して欲しい。
- 暫定整備事業は、連続立体交差事業の事業化が決定していなくても実施するのか。

長岡京市



- 駅東地区は、連続立体交差事業に大きく影響を受けることが想定されます。連続立体交差事業の事業主体となる京都府と早期事業化に向けた協議を継続するとともに、具体的なスケジュールを示せるよう鋭意取り組んでいきたい。